キャンパス・コラム

学生による学生のための大学広報誌

広報室の機能が６月８日付で大きく変わり、学生募集活動に関わる広報を除くほぼ全ての広報機能を新広報室がカバーすることになりました。それに伴ってこれまで入学センター入学企画課の刊行物として発行していた本誌「Hakumon ちゅうおう」は広報室から発行することになりました。

学生を対象とした広報誌の歴史を振り返ると、1960年代の大学紛争を契機に学生への情報開示の必要性に迫られ発行されはじめた大学が多く、その後、1970年代以降も基本的には大学から単一方向の「お知らせ」的学内広報でありました。しかし、大学進学率の上昇による大学の大衆化が進む1980年代後半から急速な変化を見せます。それは、学生と大学とのコミュニケーションのためのメディアとして定着し始めたのです。そんな中、本学の学生対象広報誌は、1980年４月の「ちゅうおう」創刊以来２度リニューアルされ、「ちゅうおうMy Campus」から、1987年より「Hakumon ちゅうおう」に誌名が改められました。

1990年代には本誌の取材・編集に学生記者が関わり始め、今では「学生記者が取材・編集する広報誌」と銘打って発行しています。

08年春号で学生記者の植松歩美さんは、卒業に当たって次のように書いています。「私は学生記者としての経験を通じて、物事を少しだけ違う角度から見る、そんな視座を手に入れたように思う。〈中略〉少しライトの当て方を変えれば、きっときらきらと輝く。現に、私は取材を通じて、たくさんの中大生の「きらり」と光る瞬間を見た。」

元新聞記者であった現在の伊藤編集長をはじめとする歴代の編集長の厳しい指導の賜物でもありますが、学生記者が感じれば読者である学生の皆さんにも、その「きらり」が伝わるに違いありません。

「学生起点の大学づくり」を標榜する本学の学生に対する姿勢を象徴する、学生による学生のための「Hakumon ちゅうおう」であり続けたいと考えています。

広報室長　外村　幸雄

編集室

中大生を含む学生気質について、本学卒業生はじめ各方面の社会人の方々に取材する機会が最近、数回ありました。何ったご意見のなかで、中大生について「真面目」「よく勉強している」などと評価するご意見の一方で、「きれいにまとまっていて個性に欠ける」「自己ＰＲが下手」「周りの人たちを気にしすぎる」などという批評も少なからずありました。

こうした批評は、社会人の立場から中大生を客観的にみたご意見であり、中大生の意識を鼓舞する温かい励ましの言葉と受け止めた次第です。身に照らして傾聴に値すると考えた人（学生）は、これを機に意識改革につなげれば、これほどの励ましはないでしょう。

ところが、それを小誌に掲載しましたところ、伝わってくる反応にちょうと気になることがあります。

卒業生の方からは、「中大（生）を批評するようなことを広報誌に載せるのはけしからん」という趣旨のお叱りが耳に入ってきています。別の方面からも似たような声が届きます。母校を愛するが故の〝分別〟なのでしょうから、分からなくはありません。

ただ、耳触りなことに蓋をしていたのでは、「向上」はしないのではないでしょうか。好意的な忠告を受け入れる素直さが大切だと感じています。

同時に、広報誌の編集担当者の一人として、中大（生）をどんどん社会にアピールしていくことが重要だ、と自戒している次第です。

（広報室　伊藤博）

学生記者が取材・編集する大学広報誌
Hakumon
Chuo ちゅうおう
2009
夏季号
2009年（平成21年）７月１日発行　No.212

発行　中央大学広報室
〒192-0393
東京都八王子市東中野742-1

〈編集担当〉
『Hakumonちゅうおう』編集室
☎042－674－2048

印刷　泰成印刷株式会社
〒130-0026
東京都墨田区両国3-1-12
☎03－3631－8141